

☆ 中学部

3年生になってから学習の成果に差がつく従来のパターンは、今や2年生の段階で大きな差となって現れてきています。学力の差が大きくなるほど、成績上位者は勉強が楽しくなり、伸び悩んでいる子は勉強を苦痛に感じるようになります。勉強が楽しくなるか苦痛に感じるかは「早いうちから少しずつ着実に努力していく」という、ほんのちょっとした姿勢の差なのです。どんなに一生懸命授業を受けても家庭学習ができていなければ学力は向上しません。学力を上げるためには、反復練習を主体とした家庭学習が必要不可欠です。

学年	科目・クラス	曜日・時間(ジャカルタ)	曜日・時間(チカラン)
中1	国語	木 18:30~20:10	木 16:30~18:10
	数学	月 18:30~20:10	金 18:00~19:40
	英語	水 16:30~18:10	月 16:30~18:10
中2	国語	火 18:30~20:10	金 18:20~20:00
	数学	木 18:30~20:10	火 18:00~19:40
	英語	金 17:30~19:10	月 18:20~20:00
中3	国語	金 18:30~20:10	木 18:20~20:00
	数学	月 18:30~20:10	土 15:00~16:40
	英語	水 18:30~20:10	火 18:20~20:00
中1	理社	土 13:00~14:50(オンライン)	
中2	理社	水 18:30~20:10(オンライン)	
中3	理社	日 13:00~14:50(オンライン)	
中1~中3	個別 《定員1名》 スクラム 《定員2名》	お問い合わせ下さい	

○学力診断テスト(教育開発)を実施します。(中1・中2は3月,6月,11月、中3は3月を除く)

◇ 数学

「正負の数」・「文字式」でスタートし「1次方程式」・「比例反比例」・「平面図形」・「空間図形」と中1では中3で学ぶ全ての単元の基礎を学びます。中1の単元で手を抜かず丁寧に学習することが必要です。中2の数学を制することは高校入試の数学を制するといっても過言ではありません。「連立方程式」・「一次関数」・「平面図形」・「確率」などの入試頻出単元の学習はもちろんですが、受験学年への基礎づくりと準備を進めることが必要になります。中3では、「因数分解」・「平方根」・「二次方程式」は新しい計算の世界です。これらの計算は入試問題の計算や小問の集合に必ず出題されるため、まずこれらの計算の定着を目指し、「二次関数」・「相似」・「三平方の定理」などの入試頻出単元に臨みます。また、入試問題は円と相似形などの融合問題が多く出題されますので、各単元の学習をいかに関連づけて思考できるかが大きなポイントになります。多くの問題を扱いながら、入試問題演習を徹底指導していきます。

◇英語

に限らず語学学習全般に言えることですが、中1の英語は、理解よりも暗記のウエイトが大きく、英語にかける学習時間のうち比較的多くの時間を「暗記」に割くこととなります。その中で、いかに効率的にかつ効果的に暗記できるかといったこつをつかむことが非常に重要です。中2になると「助動詞」・「不定詞」・「動名詞」・「文型」・「比較」・「受動態」などの重要単元が目白押しとなります。習得すべき単語や熟語の数も1年次よりも増加します。また、1年次に英語に苦手意識を持ってしまったお子様にとっても、土台を再構築する重要な学年となります。「現在完了」・「不定詞」・「分詞」・「関係代名詞」等の中3内容は、全てが入試に直結する重要単元です。いかに各単元のポイントを抑えて学習を進めていけるかが中3の夏以降の飛躍の鍵を握っています。

◇国語

の授業は読解中心です。特に中1の間は文章の内容理解を優先させますので、文章内容や背景知識などを丁寧に解説していきます。次に、漢字などの確認テストにむけた準備や宿題を通して学習サイクルを確立していきます。文法や古文など、小学校の頃にあまり扱うことのなかったものも導入していきます。中2に進むと、読解面は設問形式別の解法を導入し、設問ごとで求められていることに正確に対応できるようにしていきます。文法事項は助動詞・助詞の学習まで進め、古文も主語の確定・訳し分け・会話文確定などのオーソドックスな問題に対応できる力を養っていきます。中3での国語は他教科よりも早く仕上げに入ります。読解はより入試問題に即した実践力を身に付けていき、文法事項は、単元学習はほぼ中2で終了していますが復習・総まとめを行います。また、古文に対する慣れを育成し、漢字・知識も入試で必要とされる事柄の定着を図り、万全の状態の入試に臨みます。

◇理科・社会(オンライン授業)

「電流のはたらきとその利用」は中学理科の最重要単元かつ難解な単元とされてきましたが、学習指導要領の改訂でその難易度は一気に下がり、公式を使いこなせば難なく解けるようになっていきます。一方2分野については、実験問題・観察問題がよく出題され難化傾向にあります。例えば、『天気』で学習するフェーン現象がありますが、内容自体は学習指導要領外ですがそのメカニズムの論理的考察の問題などは多くの都道府県で出題されています。地理の学習では、常に地図帳を積極的に活用しましょう。地図帳には地理の重要な要素が凝縮されています。地形図から世界全図まで、地図を読み取れるかどうかは地理分野の理解に大きな影響を与えています。歴史においては、歴史の流れを理解することがポイントです。日本史でも世界史でも、世の中が大きく変わるターニングポイントを理解し、古代～現代に至るまでのストーリーを自分なりに語れるようにしたいものです。定期テスト前の勉強が不足しているため、なかなか思うように点数が取れない科目です。普段から演習問題をたくさんこなし、復習を繰り返すことが実力アップのカギです。